

古代と未来をつなぐ歴史ロマン

# 織姫伝説

猪名川のほとり、静謐な神社、人の行き交う街角。伝説の織姫たちが生きた古代は私たちの暮らす今へと続いている。池田の伝承をおさらいするとともに、「織姫プロジェクト」で地域活性化に取り組む『池田商工会議所』振興常任委員会取材した。

## 池田に息づく「くれは・あやは伝説」

今からずっと昔、応神天皇の頃のこと。阿知使主と都加使主の父子は、天皇の命で機織りと裁縫の技術者を探す旅に出た。現在の中国である呉の国に渡り、5年もの長旅の末に父子は4人の織姫たちを連れ帰ることに成功。その頃にはすでに仁徳天皇の時代となっていたが、応神天皇の意思を継いで、池田の地にも呉織と穴織という織姫の姉妹が遣わされた。2人は織殿を建てて全国へ機織りや染色の技術を広げ、これが日本の衣服文化の基礎となった。姉妹は生涯池田にとどまったという。死後はその功績が讃えられ、呉織は呉服

神社、穴織は伊居太神社の祭神として、今も大切に祀られている。この池田の織姫伝説を、耳にしたことのある人は多いのではないだろうか。現在も市内に呉服町、綾羽といった地名が残り、点在する史跡からは伝説の面影が垣間見える。また池田市の市章には、織姫たちが糸を染める水を汲んだ『染殿井』と、糸巻きがデザインされている。池田のルーツといえる伝承なのだ。そんな織姫伝説をあらためて若い世代に広め、池田の魅力を知ってもらおうと、伝説をモチーフにしたマンガとアニメが制作された。『クレハとアヤハ織姫が紡ぐはじまりの物語』（以下、『クレハとアヤハ』）だ。企画・制作を担当した5人のメンバーに話を聞いた。

いけだ 3 伊居太神社

そめどのい 1 染殿井

きぬかす 2 衣被きの碑

くれは 4 呉服神社

とうせん ふち 5 唐船が淵

ほし みや 6 星の宮

## 古代の伝説をこれからの物語へ

『クレハとアヤハ』の主人公は、就職活動に悩む池田市出身の大学生。ふとしたことから古代の池田へタイムスリップし、織姫の姉妹、クレハ姫とアヤハ姫との出会いを通じて働くことの意味を見つめ直すという物語だ。現代の若者を主人公にした理由について、『池田商工会議所』の振興常任委員会委員長である那須善行さんは「織姫伝

説の文獻は、応神天皇の時代から800年ほど後に書かれている。それと同じように、大昔の伝説を語り継ぐだけではなく、今の私たちに寄り伝わりやすい形でアレンジしたかったと話す。物語の中で、事始めをキーワードにしたことも工夫のひとつだ。池田市はインスタントラーメンを発明した安藤百福氏や、『阪急阪神東宝グループ』の創業者である小林一三氏の存在から、事始めのまちとして知られている。物語の中で



▶伝説を知ることによって池田が事始めのまちであることを知ってほしいという願いを込めて、『大阪教育大学附属池田小学校』佐々木靖校長（写真左）にマンガ500冊を寄贈した。右は『池田商工会議所』池田吉清副会頭

## 子どもたちにまちの誇りを伝える

実は『クレハとアヤハ』の制作は、『池田商工会議所』の振興常任委員会が進める「織姫プロジェクト」のひとつ。伝承活動や、織姫伝説を活用した商品開発、創業促進、観光振興などの分野で市内の事業者をサポートする。7月3日には、池田市内の小学校に『クレハとアヤハ』のマンガを寄贈した。寄贈後、孫とおじいちゃんやおばあちゃんの間で織姫伝説について語り合ったという声も寄せられた。家庭の会話のきっかけになったのは嬉しいことと『池田商工会議所』の専務理事・中田博之さん。かつては学校や地域の大人から地元の話や歴史や伝承を知る若い世代が少なくなっているという。自分たちの住むまちを知る、よいきっかけになりそうだ。池田商工会議所は今年3月に旅行業免許を取得。商工会議所では全国初だという。ツーリズムに重点を置き、織姫伝説ゆかりのスポット巡りなど池田の歴史を体感できるツアーを提供する予定だ。

## 『クレハとアヤハ』チームにインタビュー

◀これから始まる『クレハとアヤハ』のキャラクター活用に向け、和気あいあいと話し合う企画メンバー。現在はコラボ商品のブランドロゴとなるマークを試作中



▶「古代の伝説を新しい切り口で紹介できたのは、メンバーが自由に発言できるチームだったおかげ」と三崎 望さん

企画メンバーの5人。左から松戸智雄さん、藤田祥子さん、那須善行さん、三崎 望さん、釜淵優子さん

## 2人の織姫を紹介!



▶伝承とフィクションの融合から生き生きとした物語が生まれた。小冊子のほか、電子書籍も配信中

もアニメあり

は、日本の呉服の発祥となった織姫たちの仕事を、事始めの元祖と位置づけた。『古代から近代、近代から将来をつなぐ、池田の魅力をもっとあげた作品になった』と思います（藤田祥子さん）。メンバーは企画からキャラクターデザイン、マンガの編集、アニメの演出にも取り組み、初体験となる仕事も多かったという。それでも「細かい部分で妥協しない、本気度の高いメンバー」（松戸智雄さん）が作画や音声担当のスタッフとやり取りを重ね、ようやく完成した。キャラクターデザイナーに力を入れたという池田市出身の釜淵優子さんは「以前から織姫伝説は知っていたものの、歴史上の人物というイメージだった。制作を通じてとても愛着のあるキャラクターになったので、みなさんに愛されて次の展開につながれば」と語る。将来的には市内の企業と連携し、地域を盛り上げる新商品や飲食店の新メニューを開発予定だ。

池田市在住の郷土史研究家で、小誌にも『池田歴史探訪コラム』を寄稿する中岡嘉弘さんは「池田には1700年も前の織姫伝説があり、日本の歴史の主流にずっと関わって来ました。池田ってほんとに素晴らしい誇りを持って歴史を語り伝えましょう」とコメントを寄せてくれた。歴史や伝承を知れば知るほど、何気なく通り過ぎる風景の中に、池田のまちの奥深い姿が浮かんでくる。